

## Ⅱ 業務の内容・実績



## 身体障害者更生相談所業務

### 1 専門相談・判定業務

身体障害者福祉法第 11 条に基づく「身体障害者更生相談所」として、補装具や更生医療の給付に係る判定などを実施しているほか、支援体制が未だ不十分であったり、既存の制度やサービスでは対応が困難な障害のある方の専門的な相談・支援を行っている。

#### (1) 専門相談

##### 相談内訳

(単位:件)

	訪 問	来 所	電話・メール	その他	計
福祉サービスの利用等	79	15	947	3	1,044
障害や病状の理解	10	16	76	1	103
健康・医療	2	4	18	0	24
不安の解消・情緒安定	5	11	10	0	26
保育・教育	0	0	0	0	0
家族関係・人間関係	0	0	0	0	0
家計・経済	1	0	0	0	1
生活技術	58	31	0	0	89
就 労	24	12	72	0	108
社会参加・余暇活動	5	1	0	0	6
そ の 他	40	12	77	0	129
計	224	102	1,200	4	1,530

II 業務の内容・実績

(2) 判定業務

① 障害別

(単位:件)

	補装具	更生医療	その他	計	来 所	訪 問	文 書	計
視 覚 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0
聴覚音声言語	308	6	0	314	268	12	34	314
肢体不自由	714	76	11	801	504	195	102	801
内 部 障 害	0	522	0	522	0	0	522	522
難病(手帳なし)	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,022	604	11	1,637	772	207	658	1,637

② 補装具

肢体不自由

(単位:件)

車 椅 子	普通型	107	電 動 車 椅 子	普通型 4.5km/h	5
	リクライニング式普通型	2		普通型 6.0km/h	4
	ティルト式普通型	1		簡易型	17
	リクライニング・ティルト式普通型	12		リクライニング式普通型	3
	手動リフト式普通型	0		電動リクライニング式普通型	0
	前方大車輪型	0		電動リフト式普通型	0
	リクライニング式前方大車輪型	0		電動ティルト式普通型	2
	片手駆動型	0		電動リクライニング・ティルト式普通型	2
	リクライニング式片手駆動型	0		そ の 他	5
	レバー駆動型	1		義 肢	義 手
	手押し型	8	義 足		63
	リクライニング式手押し型	5	装 具	下 肢	303
	ティルト式手押し型	8		靴 型	62
	リクライニング・ティルト式手押し型	25		体 幹	4
	そ の 他	0		上 肢	3
歩 行 器	5	座 位 保 持 装 置	車椅子付	5	
歩行補助つえ	3		電動車椅子付	3	
重度障害者用意思伝達装置	21		そ の 他	16	
				計	708

※複数支給の場合あり

聴覚障害(補聴器) (単位:件)

高 度	ポケット型	3
	耳掛け型	146
重 度	ポケット型	3
	耳掛け型	124
耳あな型		23
デジタルワイヤレスシステム		2
計		301

※両耳に支給の場合は、2件として計上している。

視覚障害 (単位:件)

眼 鏡	矯正	0
	遮光	0
	コンタクトレンズ	0
	弱視	0
盲人用安全つえ		0
義眼		0
計		0

※特例補装具にあたらぬ場合は判定不要。

③ 更生医療

(単位:件)

	新 規	内容変更	期間延長	計
視 覚 障 害	0	0	0	0
聴覚・音声言語 そしゃく機能障害	6	0	0	6
肢 体 不 自 由	75	1	0	76
じん臓機能障害	212	112	186	510
心臓機能障害	0	0	0	0
小腸機能障害	0	0	0	0
免疫機能障害	5	1	0	6
肝臓機能障害	2	4	0	6
計	300	118	186	604

## 2 補装具費支給制度、日常生活用具給付制度の管理

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成 17 年法律第 123 号）」（以下「障害者総合支援法」と言う。）第 76 条に基づく補装具費の支給制度、及び仙台市障害児者日常生活用具給付事業実施要綱（平成 18 年 10 月 1 日健康福祉局長決裁）に基づく日常生活用具給付制度を所管している。

各区障害高齢課・宮城総合支所保健福祉課における支給・給付決定等の事務の円滑化のため、事務処理マニュアルや Q&A の整備を進めているほか、支給・給付実績を分析し、制度の改善に役立っている。

### (1) 補装具費支給制度

#### 補装具費支給実績

（単位：件・円）

		支 給		修 理		計	
		件数	公費支出額	件数	公費支出額	件数	公費支出額
障害者 (18歳以上)	青葉区	267	30,006,681	219	8,995,755	486	39,002,436
	宮城野区	199	24,816,957	247	14,820,341	446	39,637,298
	若林区	140	16,437,244	159	9,296,651	299	25,733,895
	太白区	258	43,986,448	303	20,362,364	561	64,348,812
	泉区	239	29,608,020	234	12,328,625	473	41,936,645
	宮城総合支所	58	7,698,704	76	4,254,447	134	11,953,151
	計	1,161	152,554,072	1,238	70,058,201	2,399	222,612,237
障害児 (18歳未満)	青葉区	64	14,158,691	21	2,076,800	85	16,235,491
	宮城野区	80	19,498,183	18	1,152,373	98	20,650,556
	若林区	56	13,511,099	21	843,072	77	14,354,171
	太白区	109	29,143,383	45	4,020,296	154	33,163,679
	泉区	119	20,141,237	53	4,427,765	172	24,569,002
	宮城総合支所	59	14,230,441	34	3,178,016	93	17,408,457
	計	487	110,683,034	192	15,698,322	679	126,381,356
合 計	青葉区	331	44,165,372	240	11,072,555	571	55,237,927
	宮城野区	279	44,315,140	265	15,972,714	544	60,287,854
	若林区	196	29,948,343	180	10,139,723	376	40,088,066
	太白区	367	73,129,831	348	24,382,660	715	97,512,491
	泉区	358	49,749,257	287	16,756,390	645	66,505,647
	宮城総合支所	117	21,929,145	110	7,432,463	227	29,361,608
	合 計	1,648	263,237,088	1,430	85,756,505	3,078	348,993,593

## (2) 日常生活用具給付制度

## 日常生活用具給付実績

(単位:件・円)

	障害者		障害児		計	
	件数	公費支出額	件数	公費支出額	件数	公費支出額
青葉区	4,504	46,686,179	376	4,121,719	4,880	50,807,898
宮城野区	3,216	35,163,904	329	3,495,514	3,545	38,659,418
若林区	2,464	25,470,797	305	4,047,205	2,769	29,518,002
太白区	4,943	50,934,167	637	6,552,681	5,580	57,486,848
泉区	4,214	44,485,160	573	6,859,847	4,787	51,345,007
宮城総合支所	748	9,490,154	235	3,291,167	983	12,781,321
計	20,089	212,230,361	2,455	28,368,133	22,544	240,598,494

## 3 身体障害者手帳の障害等級の程度に関する審査・認定業務

福祉事務所を經由して行われた身体障害者手帳の申請について、身体障害者福祉法に定める障害を有する状態への該当・非該当、障害等級の程度、再認定の要否等について審査・認定を行っている。

また、高度な医学的判定が必要な申請についての審査を行う仙台市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会身体障害者福祉審査部会を運営している。

## (1) 手帳事務処理件数

(単位:件)

年度	交付			計	却下	医師への 照会	部会審査
	新規	障害変更	紛失破損				
28	2,202	707	327	3,236	23	484	411
29	2,167	877	335	3,379	20	490	387
30	2,243	797	341	3,381	17	412	435

※ 新規交付には他県・市交付者の紛失破損・等級変更による申請を含む

II 業務の内容・実績

(2) 平成 30 年度新規交付者数

① 障害別・等級別内訳（全市版）

【ア 総数】

（単位：人）

項目	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚	132	21	61	8	13	29	0
聴覚	132	0	3	8	55	0	66
平衡	0	0	0	0	0	0	
音声・言語・そしゃく	26	3	1	11	11		
肢体不自由	695	235	143	86	91	104	36
心臓	437	397	0	23	17		
じん臓	247	158	2	87	0		
呼吸器	150	25	0	111	14		
ぼうこう・直腸	289	0	0	3	286		
小腸	0	0	0	0	0		
免疫	1	0	1	0	0		
肝臓	8	2	4	0	2		
計	2,117	841	215	337	489	133	102

※ 他県・市交付者の紛失破損・等級変更による申請は除く（以下：イ）②まで同様）

注 1) 重複する障害がある場合は、より重度の障害に計上している。

例：視覚障害 4 級及び肢体不自由 3 級（総合等級 2 級）の場合は、「肢体不自由 2 級」に計上

注 2) 重複する障害があり、その程度が同じ等級の場合は、表中の上位の障害に計上している。

例：聴覚障害 4 級及び心臓機能障害 4 級（総合等級 3 級）の場合は、「聴覚障害 3 級」に計上

【イ 18 歳未満再掲】

（単位：人）

項目	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
視覚	3	1	0	1	1	0	0
聴覚	11	0	0	5	0	0	6
平衡	0	0	0	0	0	0	
音声・言語・そしゃく	0	0	0	0	0		
肢体不自由	18	7	6	0	2	3	0
心臓	4	3	0	1	0		
じん臓	0	0	0	0	0		
呼吸器	8	7	0	0	1		
ぼうこう・直腸	3	0	0	0	3		
小腸	0	0	0	0	0		
免疫	0	0	0	0	0		
肝臓	0	0	0	0	0		
計	47	18	6	7	7	3	6



## ② 障害別・等級別内訳（区別）

【ア 総数】

（単位：人）

項 目		総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
総計	総計	2,117	841	215	337	489	133	102
	視覚	132	21	61	8	13	29	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	158	3	4	19	66	0	66
	肢体不自由	695	235	143	86	91	104	36
	内部障害	1,132	582	7	224	319		
小計		420	168	43	63	107	18	21
青葉区	視覚	29	3	15	2	2	7	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	36	0	0	4	14	0	18
	肢体不自由	131	57	26	15	19	11	3
	内部障害	224	108	2	42	72		
	小計	133	57	17	19	31	5	4
宮城総合支所	視覚	6	2	3	1	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	9	0	0	0	6	0	3
	肢体不自由	53	19	13	6	9	5	1
	内部障害	65	36	1	12	16		
	小計	347	121	34	64	83	24	21
宮城野区	視覚	29	3	9	5	3	9	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	30	3	0	3	12	0	12
	肢体不自由	105	27	24	13	17	15	9
	内部障害	183	88	1	43	51		
	小計	271	114	26	50	51	19	11
若林区	視覚	17	4	9	0	0	4	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	22	0	3	3	10	0	6
	肢体不自由	87	33	14	14	6	15	5
	内部障害	145	77	0	33	35		
	小計	543	209	56	77	132	45	24
太白区	視覚	30	3	18	0	6	3	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	39	0	1	5	20	0	13
	肢体不自由	197	60	34	21	29	42	11
	内部障害	277	146	3	51	77		
	小計	403	172	39	64	85	22	21
泉区	視覚	21	6	7	0	2	6	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	22	0	0	4	4	0	14
	肢体不自由	122	39	32	17	11	16	7
	内部障害	238	127	0	43	68		

II 業務の内容・実績

【イ 18歳未満再掲】

(単位:人)

項目	総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>18</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>3</b>	<b>6</b>	
総計	視覚	3	1	0	1	1	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	11	0	0	5	0	0	6
	肢体不自由	18	7	6	0	2	3	0
	内部障害	15	10	0	1	4		
<b>小計</b>	<b>8</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	
青葉区	視覚	1	0	0	0	1	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	0	0	0	1
	肢体不自由	3	1	1	0	1	0	0
	内部障害	3	3	0	0	0		
<b>小計</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	
宮城総合支所	視覚	0	0	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	0	0	0	1
	肢体不自由	1	1	0	0	0	0	0
	内部障害	2	1	0	1	0		
<b>小計</b>	<b>10</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	
宮城野区	視覚	1	0	0	1	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	3	0	0	1	0	0	2
	肢体不自由	3	2	0	0	1	0	0
	内部障害	3	2	0	0	1		
<b>小計</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
若林区	視覚	0	0	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	1	0	0	0
	肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0
	内部障害	2	1	0	0	1		
<b>小計</b>	<b>11</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	
太白区	視覚	1	1	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	4	0	0	2	0	0	2
	肢体不自由	4	0	2	0	0	2	0
	内部障害	2	1	0	0	1		
<b>小計</b>	<b>11</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	
泉区	視覚	0	0	0	0	0	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	1	0	0	1	0	0	0
	肢体不自由	7	3	3	0	0	1	0
	内部障害	3	2	0	0	1		

(3) 平成30年度末現在の手帳保持者数

① 等級別・障害別の手帳保持者数（全市版）

【ア 総数】

（単位：人）

項目		総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級
総計		32,374	10,936	4,979	5,035	7,212	2,485	1,727
内 訳	視覚障害	2,189	714	744	104	179	356	92
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	2,917	77	773	470	761	17	819
	聴覚	2,453	47	746	231	609	1	819
	平衡	23	0	0	7	0	16	
	音声・言語・そしゃく	441	30	27	232	152		
	肢体不自由	16,346	3,237	3,288	2,826	4,067	2,112	816
	上肢	5,849	2,055	1,878	862	436	308	310
	下肢	8,781	625	833	1,630	3,603	1,587	503
	体幹	1,278	247	506	316	5	204	
	上肢機能	255	214	20	9	8	4	0
	移動機能	183	96	51	9	15	9	3
	内部障害	10,922	6,908	174	1,635	2,205		
	心臓	5,919	4,518	29	784	588		
	じん臓	2,532	2,213	27	279	13		
	呼吸器	658	89	17	439	113		
	ぼうこう・直腸	1,579	10	7	89	1,473		
	小腸	30	16	3	7	4		
免疫	138	15	76	35	12			
肝臓	66	47	15	2	2			

II 業務の内容・実績

【イ 18歳未満再掲】

(単位:人)

項 目		総計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
総 計		656	339	143	73	53	20	28
内 訳	視 覚 障 害	37	18	4	1	5	8	1
	聴覚・平衡・音声・言語・そしゃく	99	0	55	18	7	0	19
	聴 覚	98	0	55	17	7	0	19
	平 衡	0	0	0	0	0	0	
	音声・言語・そしゃく	1	0	0	1	0		
	肢 体 不 自 由	408	253	82	32	21	12	8
	上 肢	79	38	12	19	3	5	2
	下 肢	117	44	44	11	11	1	6
	体 幹	22	10	7	0	0	5	
	上肢機能	118	109	8	1	0	0	0
	移動機能	72	52	11	1	7	1	0
	内 部 障 害	112	68	2	22	20		
	心 臓	33	23	1	5	4		
	じ ん 臓	7	6	0	1	0		
	呼 吸 器	38	27	0	8	3		
	ぼうこう・直腸	22	2	1	6	13		
	小 腸	5	3	0	2	0		
免 疫	0	0	0	0	0			
肝 臓	7	7	0	0	0			

## ② 障害別・等級別手帳保持者数（区別）

【ア 総数】

（単位：人）

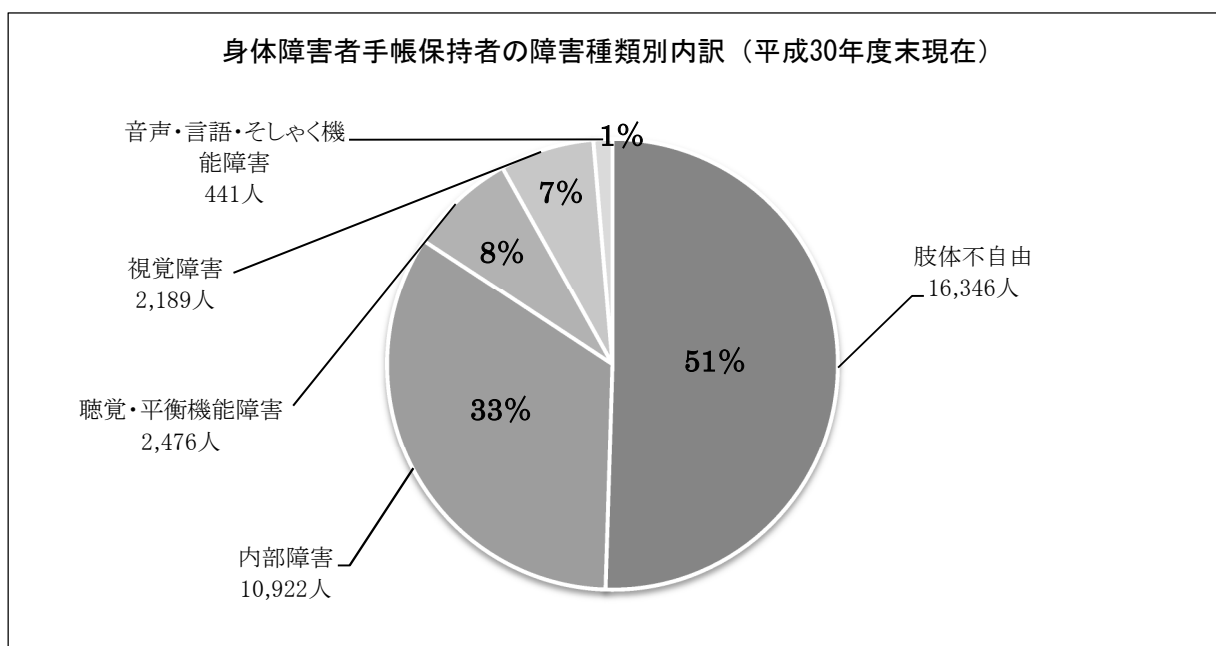
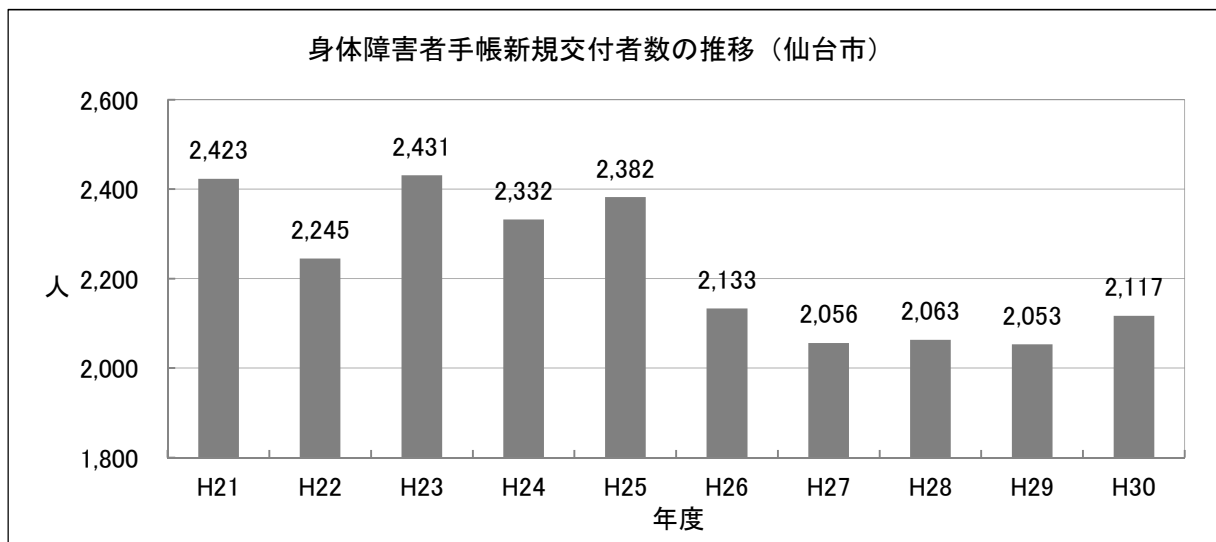
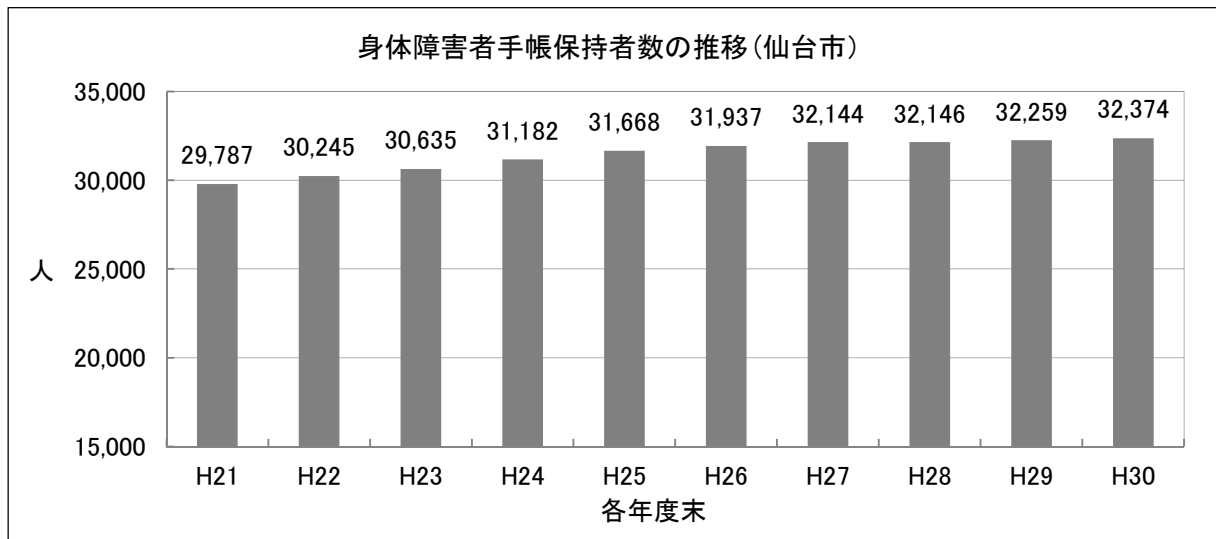
項 目		総計	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級
総 計	総 計	32,374	10,936	4,979	5,035	7,212	2,485	1,727
	視 覚	2,189	714	744	104	179	356	92
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	2,917	77	773	470	761	17	819
	肢体不自由	16,346	3,237	3,288	2,826	4,067	2,112	816
	内部障害	10,922	6,908	174	1,635	2,205		
小 計		6,370	2,122	959	976	1,458	498	357
青 葉 区	視 覚	518	165	183	21	46	86	17
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	601	9	113	113	174	4	188
	肢体不自由	3,055	563	606	520	806	408	152
	内部障害	2,196	1,385	57	322	432		
小 計		2,151	779	311	311	478	157	115
宮 城 総 合 支 所	視 覚	136	55	43	5	9	15	9
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	187	5	43	23	59	1	56
	肢体不自由	1,127	262	216	184	274	141	50
	内部障害	701	457	9	99	136		
小 計		5,555	1,844	905	897	1,186	405	318
宮 城 野 区	視 覚	413	138	133	25	36	61	20
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	477	20	137	77	118	3	122
	肢体不自由	2,828	502	604	513	692	341	176
	内部障害	1,837	1,184	31	282	340		
小 計		4,257	1,414	629	681	962	320	251
若 林 区	視 覚	277	82	104	11	21	45	14
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	425	9	114	60	117	0	125
	肢体不自由	2,100	400	390	386	537	275	112
	内部障害	1,455	923	21	224	287		
小 計		7,823	2,649	1,233	1,181	1,767	608	385
太 白 区	視 覚	491	165	167	22	42	78	17
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	731	16	238	106	185	4	182
	肢体不自由	4,028	899	797	641	979	526	186
	内部障害	2,573	1,569	31	412	561		
小 計		6,218	2,128	942	989	1,361	497	301
泉 区	視 覚	354	109	114	20	25	71	15
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	496	18	128	91	108	5	146
	肢体不自由	3,208	611	675	582	779	421	140
	内部障害	2,160	1,390	25	296	449		

II 業務の内容・実績

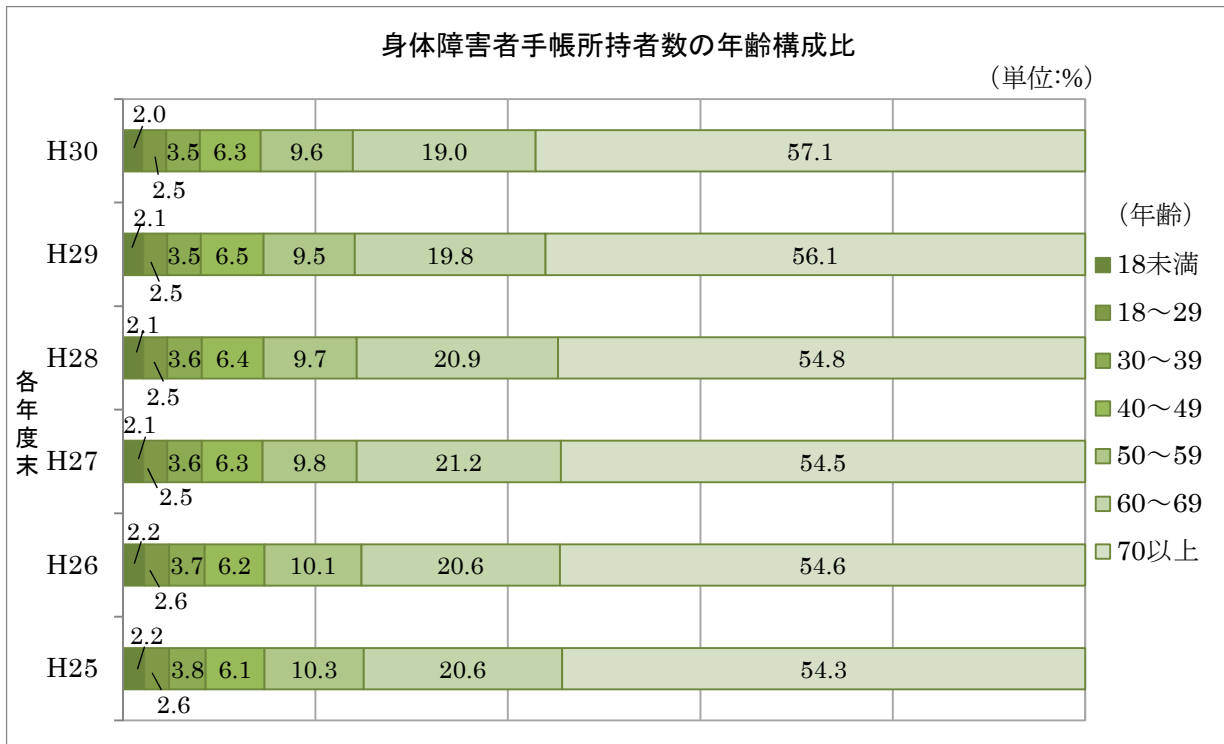
【イ 18歳未満再掲】

(単位:人)

項目	総計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
<b>総計</b>	<b>656</b>	<b>339</b>	<b>143</b>	<b>73</b>	<b>53</b>	<b>20</b>	<b>28</b>	
総計	視覚	37	18	4	1	5	8	1
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	99	0	55	18	7	0	19
	肢体不自由	408	253	82	32	21	12	8
	内部障害	112	68	2	22	20		
<b>小計</b>	<b>94</b>	<b>48</b>	<b>16</b>	<b>9</b>	<b>13</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	
青葉区	視覚	6	2	0	0	2	2	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	9	0	3	1	2	0	3
	肢体不自由	61	36	13	2	7	1	2
	内部障害	18	10	0	6	2		
<b>小計</b>	<b>73</b>	<b>47</b>	<b>11</b>	<b>8</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	
宮城総合支所	視覚	5	3	1	0	0	1	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	6	0	2	2	0	0	2
	肢体不自由	47	37	7	3	0	0	0
	内部障害	15	7	1	3	4		
<b>小計</b>	<b>106</b>	<b>53</b>	<b>28</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	
宮城野区	視覚	11	8	1	1	0	1	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	11	0	8	1	0	0	2
	肢体不自由	73	39	19	5	5	2	3
	内部障害	11	6	0	4	1		
<b>小計</b>	<b>70</b>	<b>34</b>	<b>18</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	
若林区	視覚	2	0	1	0	1	0	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	15	0	11	2	0	0	2
	肢体不自由	42	25	6	4	3	4	0
	内部障害	11	9	0	1	1		
<b>小計</b>	<b>180</b>	<b>89</b>	<b>44</b>	<b>18</b>	<b>13</b>	<b>5</b>	<b>11</b>	
太白区	視覚	8	4	1	0	0	3	0
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	41	0	21	6	5	0	9
	肢体不自由	101	65	22	8	2	2	2
	内部障害	30	20	0	4	6		
<b>小計</b>	<b>133</b>	<b>68</b>	<b>26</b>	<b>20</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	
泉区	視覚	5	1	0	0	2	1	1
	聴覚・平衡・ 音声・言語・そしゃく	17	0	10	6	0	0	1
	肢体不自由	84	51	15	10	4	3	1
	内部障害	27	16	1	4	6		



II 業務の内容・実績





#### 4 指定医師（身体障害者福祉法第 15 条）及び 指定自立支援医療機関（障害者総合支援法第 59 条）の指定業務

「身体障害者福祉法第 15 条」に規定される身体障害者手帳交付のための診断を行う医師の指定及び「障害者総合支援法第 59 条」に規定される自立支援医療（育成医療・更生医療）を担当する医療機関の指定を行っている。

##### (1) 身体障害者福祉法第 15 条に規定する指定医師数（部位別）

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位:人)※延人数

障害部位	視覚	聴覚	平衡	音声・言語	そしゃく	肢体	心臓	じん臓	呼吸器	ぼうこう・直腸	小腸	免疫	肝臓	計
医師数	140	119	204	260	182	919	519	494	529	388	403	20	110	4,287

※複数の障害部位の指定を受けている医師がいるため、医師の実数は 1,586 人

##### (2) 障害者総合支援法第 59 条に規定する指定自立支援医療機関数（更生医療・育成医療）

平成 31 年 3 月 31 日現在

(単位:所)

医療の種類	病院又は診療所														薬局	指定訪問看護事業者等	
	眼科	耳鼻咽喉科	口腔	整形外科	形成外科	中枢神経	脳神経外科	心臓脈管外科	心臓移植	じん臓	じん臓移植	小腸	歯科矯正	免疫			肝臓移植
機関数	4	8	6	15	4	1	3	10	1	31	3	3	17	4	3	313	2

## 地域リハビリテーション推進事業

身体障害への支援に加え、高次脳機能障害や難病等、地域での支援体制が充分ではない障害を対象として専門的な支援を行い、どのような障害があっても、本人の望む場所でその人らしく生活できる地域づくりを推進するために、次の事業を実施している。

### 1 高次脳機能障害者支援事業

頭部外傷や脳血管疾患等による脳損傷の後遺症である高次脳機能障害は、「見えない障害」とも言われ、症状が多様で複雑なことなどから地域で十分な支援が受けられない状況にある。当センターでは、平成 21 年度から高次脳機能障害に関する総合相談を開始し、平成 24 年度からは、研修事業も実施している。これらの事業をとおして、高次脳機能障害者が身近な支援機関（医療機関、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、介護保険事業所等）で切れ目のない支援を受け、地域で自立した生活を送ることができるような仕組みづくりを目指している。

#### (1) 総合相談

心理判定員、作業療法士、社会福祉士、言語聴覚士等の専門職チームが多角的な見地からアセスメントを行い、支援の方向性を見出すことを目的として実施している。

##### ① 支援実人数・支援回数

支援実人数 76 人  
支援回数 388 回

##### ② 支援の方法

(単位:回)

訪問	41
来所	48
同行	9
電話・FAX	132
電子メール	1
個別支援会議・ケースレビュー	35
関係機関との連携・調整	119
その他	3
計	388

##### ③ 支援の内容

(単位:回)※延回数

福祉サービスの利用等	153
障害や病状の理解	72
健康・医療	20
不安の解消・情緒安定	19
保育・教育	0
家族関係・人間関係	0
家計・経済	0
生活技術	2
就労	109
社会活動・余暇	7
権利擁護	0
評価・訓練支援	11
その他	17
計	410

## (2) 研修事業

支援者を対象として、支援スキルの向上及び当センターの総合相談の機能を伝えることを目的に研修を実施している。

名 称	高次脳機能障害基礎講座	実 施 日	平成 30 年 5 月 18 日
対 象	高次脳機能障害者を支援する職員で、特に入職から 3 年以下の者及び、一般市民	参加人数	80 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1		
内 容	≪ 高次脳機能障害に関する基本的知識 ≫ ①高次脳機能障害概説 ②高次脳機能障害者が使える社会資源 ③高次脳機能障害者の地域支援の実際		
講 師	①②障害者総合支援センター 心理判定員 佐藤 維子 ③若林障害者福祉センター 作業療法士 市村 敦 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	高次脳機能障害支援者ステップアップ研修(中級編 ①②)	実 施 日	①平成 30 年 6 月 29 日 ②平成 30 年 7 月 27 日
対 象	高次脳機能障害者を支援する職員で、高次脳機能障害に関する基礎的な知識を有している者、かつ 3 年以上の経験がある職員	参加人数	①54 人 ②53 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1		
内 容	≪ 講演 ≫ ①「高次脳機能障害と共に生活する」 (1) 高次脳機能障害について～当事者の立場から～ (2) 家族の立場から (3) 障害受容について ②「高次脳機能障害をアセスメントする」 (1) 地域生活を支えるアセスメント (2) 高次脳機能障害チェックリストの使い方		
講 師	①(1) 日下 真由美氏 (2) 障害者相談支援事業所 ハンズ宮城野 池田 美穂 氏 障害者総合支援センター 心理判定員 佐藤 維子 (3) 医療法人小島慈恵会小島病院 臨床心理士 後藤 貴浩 氏 ②(1) 東北福祉大学総合福祉学部 准教授 竹之内 章代 氏 (2) 障害者総合支援センター 心理判定員 佐藤 維子		
開催主体	障害者総合支援センター		

## II 業務の内容・実績

名 称	高次脳機能障害支援者ステップアップ研修(上級編①②)	実 施 日	①平成30年11月16日②平成30年12月15日
対 象	高次脳機能障害者を支援する職員で、高次脳機能障害に関する基礎的な知識を有している者、かつ3年以上の経験がある職員高次脳機能障害者を支援する職員	参加人数	①38人 ②32人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	①《事例検討》「ICFを活用した事例検討について」 ②《講義・演習》「高次脳機能障害に対するマインドフルネス瞑想～ポジティブな行動支援に役立つ、注意と共感能力向上のために～」		
講 師	①社会福祉法人世田谷ボランティア協会 福祉事業部長 和田 敏子 氏 ケアセンターふらっと 施設長 川邊 循 氏 障害者相談支援事業所 ハンズ宮城野相談支援専門員 碓井 修二 氏(事例提供者) ②医療法人敬智会梶原病院内科部長 NPO 法人高次脳機能障害支援ネット理事 医師・医学博士 粂間 剛 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	高次脳機能障害支援事業医療機関との勉強会	実 施 日	平成30年10月12日
対 象	仙台市内の病院等で高次脳機能障害者を支援する職員	参加人数	5人(3医療機関)
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	《講話》 ①ウエルポートせんだいの支援事業について ②高次脳機能障害の方が取得できる障害者手帳について ③事例紹介 ④情報交換		
講 師	①障害者総合支援センター 作業療法士 佐々木 恭子、作業療法士 平塚 優子 ②障害者総合支援センター 主事 吉田 美香、高森 智子 ③宮城野障害者福祉センター		
開催主体	障害者総合支援センター		

**(3) 地域リハビリテーション事例検討会**

支援者を対象とし、実際に支援している事例を通して高次脳機能障害やその支援について理解を深める場として、定期的に事例検討会を開催した。事務局は仙台市立病院地域医療連携室と共同で担っている。

開催日	検討事例	参加人数
平成 30 年 6 月 12 日	職場で上手くいかないかと相談があった事例への対応	17 人
平成 30 年 9 月 26 日	リハビリ復職をしている方への復職支援の進め方	15 人
平成 31 年 1 月 29 日	右半球損傷によるコミュニケーション障害を呈する症例への支援	18 人

**(4) 高次脳機能障害家族教室**

高次脳機能障害者を家庭で支えている家族は、高次脳機能障害による様々な言動に強いストレスを感じていると考えられる。家族自身が障害への理解を深め、理解に基づいて対応できるようになることを目指し、家族教室（全 5 回）を開催した。

開催日	内容	参加人数
平成 30 年 11 月 16 日	講話「高次脳機能障害について」・体操・話し合い	9 人
平成 30 年 11 月 30 日	講話「高次脳機能障害が利用できる制度」・体操・話し合い	8 人
平成 30 年 12 月 14 日	講話「ストレスとの付き合い方」・体操・話し合い	6 人
平成 31 年 1 月 11 日	講話「注意障害・記憶障害との付き合い方」・体操・話し合い	8 人
平成 31 年 1 月 25 日	講話「同じ立場の家族と話す意味」・体操・話し合い	8 人

**(5) 高次脳機能障害家族交流会**

高次脳機能障害者を家庭で支えている家族は、高次脳機能障害による様々な言動に強いストレスを感じていると考えられる。家族が障害への対応を家族で抱え込まないことや他の家族とのつながりを増やすことを目指し、家族交流会（平成 30 年度からの新規事業。毎月 1 回）を開催した。

開催日	内容	参加人数(延)
平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月(全 12 回)	フリートーク	40 人
(※内、8 月は講話も実施)	≪講話≫「言語聴覚士を囲んで」 講師：宮城野障害者福祉センター 言語聴覚士 佐々木類氏	(内) 6 人

## 2 視覚障害者支援事業

途中で視覚障害となった方は、疾病等による急激な視力の低下や視野狭窄で日常生活に困難が生じ、精神的ショックから引きこもってしまうなど、社会参加や福祉サービスの利用につながらない例が多い。当センターでは、そのような途中で視覚障害となった方の地域生活を支援し、就労を含めた社会参加の促進を図るための支援システムの構築を進めている。

具体的には、平成17年に官民協働でNPO法人アイサポート仙台を立ち上げ、「仙台市中途視覚障害者支援センター」を開設した。平成30年8月より活動拠点を仙台市障害者総合支援センター内に移転し、名称を「仙台市視覚障害者支援センター」に変更して引き続き相談支援等を行う生活支援事業を実施している。また、平成17年4月より（公財）日本盲導犬協会仙台訓練センターに委託して、白杖歩行等の訓練を行う生活訓練事業を実施している。

さらに、NPO法人アイサポート仙台が平成19年2月から創作活動・レクリエーション活動等の地域生活支援事業を行うために開設した障害者地域活動推進センター「きりん」に対し、その運営費を補助している。

### (1) 生活支援事業(委託先:NPO 法人アイサポート仙台)

視覚障害となった方及びその家族を支援するための総合相談窓口として、「仙台市視覚障害者支援センター」を開設し、下記の事業を行っている。

名 称	仙台市視覚障害者支援センター
住 所	仙台市泉区泉中央2丁目24-1 仙台市障害者総合支援センター内
電 話	022-341-1728
ファクス	022-341-1729
相談日・時間	月曜日から金曜日午前9時から午後6時まで

#### ① 相談事業

視覚障害となった方及びその家族、医療機関や行政機関等からの相談について、専門的知識を有する相談員が対応している。ニーズに応じて、各種保健福祉サービス等の利用援助や、専門機関等の紹介なども行っている。

#### ア 利用者数（居住区別）

(単位:人)

青 葉	宮城野	若 林	太 白	泉	不明・その他	計
106	46	31	54	64	8	309

#### イ 相談件数

(単位:件)

電 話	来 所	訪 問	文 書	ケア会議	計
1,287	298	341	244	17	2,187

#### ウ 関係機関・施設からの相談

(単位:件)

行政機関	医療機関	福祉機関	教育機関	民間企業	ボランティア	その他	計
15	23	21	0	14	0	10	83

## ② 視覚障害リハビリテーション事業

平成25年4月より、途中で視覚障害となった方で、求職中もしくは就労の継続を希望する方を対象に、通勤のための歩行訓練や画面読み上げソフトを使用したパソコン訓練等及び、就職活動の支援を通所により実施している。

## ア 利用者数 (単位:人)

就労中	求職中	計
9	8	17

## イ 訓練内容 (単位:回)

訓練内容	延回数
歩行訓練	25
パソコン訓練(タイピング、ワード、エクセルなど)	159
点字	0
ロービジョン訓練※	7
その他	10
計	201

※ロービジョン訓練とは、見えにくい方が、自分の見え方を知り、保有する視覚機能を最大限に活用するための訓練のこと

## ウ 進路状況 (単位:人)

就職	就労継続	求職中	計
10	1	6	17

## ③ 交流会

途中で視覚障害となった方及びその家族の情報交換や交流の場として、交流会を開催している。

(単位:人)

内容	会場	回数	参加延人数
中途視覚障害者交流会	仙台市福祉プラザ・市民センター等	12	176
働きたい・働き続けたい方の交流会	仙台市福祉プラザ	2	43

## II 業務の内容・実績

### ④ 研修会・講演会

#### ア 地域リハビリテーション支援者養成研修（視覚障害）

障害者福祉サービス事業所や介護保険・高齢者福祉関連の事業所に所属のスタッフを対象に視覚障害者支援に関する知識や技術の向上を図ることを目的とする研修会を開催した。

名 称	視覚障害リハビリテーション・生活支援研修会 (第1回)	実 施 日	平成30年11月15日
対 象	障害者福祉や高齢者福祉、介護保険サービス等の 従事者	参加人数	20名
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	「視覚障害がある利用者とともに楽しめる活動プログラムのヒント」 ①見えない・見えにくいってどういうこと？ ②誘導の基本、言葉がけの基本 ③見えない人・見えにくい人も活躍できるレクリエーションの紹介		
講 師	①仙台市視覚障害者支援センター 相談員 丹野 由加里 氏 ②③仙台市視覚障害者支援センター 主任相談員 阿部 直子 氏		
開催主体	仙台市視覚障害者支援センター、障害者総合支援センター		

名 称	視覚障害リハビリテーション・生活支援研修会 (第2回)	実 施 日	平成31年3月8日
対 象	障害者の就労支援従事者	参加人数	13名
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	「視覚障害のある方が働くためのヒント」 ①講話(1)視覚障害の方への就労支援制度について ②講話(2)見えない・見えにくいとは ③技能発表(1)Excelでのデータ集計 ④技能発表(2)Wordでの文書作成 ⑤体験談(1)私のはたらきかた ⑥体験談(1)就労継続をしていくために私がしたこと		
講 師	①ハローワーク専門援助第二部門 高橋 和大 氏 ②仙台市視覚障害者支援センター 相談員 丹野 由加里 氏 ③就労している当事者 ④就労している当事者 ⑤就労している当事者 ⑥就労している当事者		
開催主体	仙台市視覚障害者支援センター、障害者総合支援センター		



## イ その他

途中で視覚障害となった方への理解の促進や、援助技術の普及啓発等を内容とした各種研修会を実施している。

事業名	回数	参加延人数
ロービジョン勉強会	月1回(年12回)	289
ボランティア講座・研修会	3	19
ワンポイント講座	月1回(年12回)	41

⑤ 「eye eye (アイアイ) 福祉機器展」  
 — 視覚障害のある方のための生活用具展示会 — の開催 —

視覚障害のある方や家族、支援者に対し、視覚障害のある方の地域生活支援に資する福祉機器類等の情報提供を行うための展示会を毎年開催している。また、会場内には、ひとつでも多くの問題が解決できるように、医療・教育・福祉制度に関する様々な相談に応じるコーナーを設けている。

日 時	平成30年10月6日(土)、10月7日(日)
会 場	仙台市福祉プラザ1階プラザホール
参加人数	10月6日(149人) 10月7日(211人) ※延べ360人
内 容	展示会(20団体出展) 関連企画 ①宮城の視覚障害者支援機関紹介コーナー(6機関) ②スポーツチーム・同好会コーナー(1団体) ③相談コーナー(相談者数19人)

## II 業務の内容・実績

### (2) 生活訓練事業(委託先:(公財)日本盲導犬協会仙台訓練センター)

途中で視覚障害となった方の自立と社会参加の促進を目的に各種訓練を行っている。

年度内に 26 回を限度とし、指導員が自宅等を訪問し、日常基本動作の習得のための身辺動作訓練、白杖等歩行訓練、ロービジョン訓練、点字やパソコン操作訓練等を行っている。

名 称	(公財)日本盲導犬協会 仙台訓練センター
住 所	仙台市青葉区茂庭字松倉 12-2
電 話	022-226-3910
ファクス	022-226-3990
相談日・時間	月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 6 時

訓練内容	延回数
身辺動作・家事動作訓練	12
白杖歩行訓練	101
パソコン訓練	109
リハビリテーション講習会	23
その他	78
計	323

平成 30 年度実利用者数 : 56 人

### (3) 障害者地域活動推進センター(運営:NPO 法人アイサポート仙台)

NPO 法人アイサポート仙台が運営する障害者地域活動推進センター「きりん」の運営費を補助している。同センターは、視覚障害のある方が地域で生き生きと生活できるよう、自立の促進、生活の質 (QOL) の向上、地域住民との積極的な交流等を図ることを目的に、創作的活動やレクリエーション活動などを実施している。

活動内容は、創作的活動や、外出機会の提供として市内散策、スポーツ・レクリエーション活動としてウォーキングや茶の湯教室等、さまざまな活動を実施している。

名 称	障害者地域活動推進センター「きりん」
住 所	仙台市泉区泉中央 2-24-1 仙台市障害者総合支援センター内
電 話	022-374-1728
ファクス	022-374-1729
開所日・時間	月曜日から金曜日 ※時間は活動内容により異なる
利 用 料	1 日 300 円

登録者数	111 人
利用者数 (延人数)	1,418 人

### 3 包括的呼吸リハビリテーション事業

呼吸器疾患や障害のある方は、息切れや息苦しさ、またはその不安感から活動が制限されることが多い。身体機能は徐々に衰え、呼吸器機能の低下を招きやすい。そのため、社会活動や余暇活動への参加は狭まり、生活の質（QOL）の低下につながっている。

呼吸器障害のある方が、楽しみや生きがいを見つけ、社会生活が継続できるような支援システムの構築を目指し、以下の事業に取り組んでいる。

#### ① 呼吸健康教室（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

呼吸器疾患や障害のある方が、少しでも楽に日常生活が過ごせるよう、当事者もしくは、その家族が疾患特性を理解し、自己管理能力を高めるための知識を学ぶ場を提供している（1 教室 5 回、年 2 回実施）。実施プログラムは、①口すぼめ呼吸法の習得、②栄養管理の知識構築、③歩数計の活用、④日常生活で行える運動実技の習得、⑤当事者同士の情報交換の場の提供等である。

本教室の運営は、平成 27 年度より社会福祉法人仙台市障害者福祉協会に委託しており、当事者団体である全国低肺機能者グループ東北白鳥会や関係団体等の協力を得ながら、円滑な教室の運営に努めている。

なお、プログラムの見直しについて、本教室監修である東北大学教授 黒澤一氏に助言を頂き実施した。

II 業務の内容・実績

名 称	呼吸健康教室			
実施日	春教室・平成30年6月13日～7月11日の各水曜日（全5回） 秋教室・平成30年9月12日～10月10日の各水曜日（全5回）			
対 象	在宅の呼吸器疾患患者とその家族	参加人数	延べ149人	
会 場	春教室	太白区中央市民センター	秋教室	泉区役所他
内 容			春教室	秋教室
	①	講 話	呼吸器患者さんが健康に過ごすために	同左
		歩数計	歩数計の活用【1】	
		交流会	交流会	
	②	講 話	自分の体で測る健康度	⑥おいしく食べて、栄養しっかり
		体験談	呼吸器障害と当事者活動	
		体 操	寝ころがってゆっくりと	
		歩数計	歩数計の活用【2】	
	③	講 話	日常生活の注意で体調をよくしましょう	⑦自分の体で測る健康度
		体 操	椅子でのストレッチと足の筋トレ	
		体 験	⑧フライングディスク体験会	
		歩数計	歩数計の活用【3】	
	④	体 操	立つ、歩くで足腰の筋力アップ	⑨日常生活の注意で体調をよくしましょう
		体 験	フライングディスク体験会	
		歩数計	歩数計の活用【4】	
	⑤	講 話	おいしく食べて、栄養しっかり	⑩椅子座位や立位での体操
		歩数計	歩数計の活用【5】	
交流会		交流会		
講 師	<p>《講話》</p> <p>①東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏</p> <p>②・⑦東北医科薬科大学若林病院副院長 高橋 識至 氏</p> <p>③・⑨仙台赤十字病院 第一呼吸器科部長 三木 誠 氏</p> <p>⑤・⑥仙台白百合女子大学 健康栄養学科 教授 佐々木 裕子 氏</p> <p>《体験談》</p> <p>②東北白鳥会会長 高橋 昭 氏</p> <p>《体操》</p> <p>②東北大学病院 理学療法士 新國 悦弘 氏</p> <p>③・④・⑩東北福祉大学リハビリテーション学科 助教 小林 大介 氏</p> <p>《歩数計》</p> <p>①～⑤東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏</p> <p>《フライングディスク体験会》</p> <p>④・⑧みやぎ障害者フライングディスク協会</p> <p>《健康増進センター体験会》</p> <p>⑪仙台市健康増進センター職員</p>			
開催主体	<p>主催：障害者総合支援センター</p> <p>監修：東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏</p> <p>運営：仙台市障害者福祉協会</p> <p>協力：東北大学大学院医学系研究科産業医学分野、帝人在宅医療株式会社 全国低肺機能者グループ東北白鳥会</p>			

## ② 呼吸リハビリテーション支援者研修会（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

障害者相談支援事業所、障害者福祉センター、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所（ヘルパー）、訪問看護事業所（看護師）、行政等の関係機関職員に対し、呼吸器疾患の特性理解、支援の工夫につながる知識提供等を行い、呼吸器障害のある方への支援力の向上を目指している。

名 称	呼吸リハビリテーション支援者研修会	実 施 日	平成31年2月4日
対 象	呼吸器疾患や障害に携わる事業所等	参 加 人 数	66人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1、研修室2		
内 容	①呼吸器疾患に関する基礎知識 ②在宅酸素療法の理解(機器説明等)		
講 師 等	①東北大学環境・安全推進センター 教授 黒澤 一 氏 ②協力：フクダライフテック南東北株式会社 株式会社小池メディカル仙台営業所		
開催主体	障害者総合支援センター		

## ③ 普及啓発

各区家庭健康課で開催する禁煙デーの取り組みにおいて、市民に対して本事業の理解を深める目的で、呼吸リハビリテーションリーフレット（冊子）を配布して啓発を行った。

#### 4 重度障害者コミュニケーション支援事業

意思の表出に高い困難性を有する ALS（筋萎縮性側索硬化症）等の進行性神経難病患者や重度障害者の生活の質（QOL）の向上のために、意思伝達装置等を活用してコミュニケーションが確保できるよう、迅速かつ継続的な支援を提供するシステムの構築を図っている。

##### (1) 重度障害者コミュニケーション支援センター運営 (委託先:NPO 法人せんだいアビリティネットワーク)

意思伝達装置は平成 18 年度から補装具費の支給対象となったが、平成 20 年度までの支給実績は使用可能と思われる方の数と比較して件数が少ないこと、支給を受けていてもスイッチの不具合等で活用できていない方が少なくないこと、スイッチの調整等の支援がごく少数の技術者によるボランティア的支援に委ねられていたこと等の課題があった。

そのため、当センターでは、支援関係者や当事者からの聞き取り調査及び他自治体における先駆的取り組みに係る調査を経て、平成 22 年度にコミュニケーション支援機関検討委員会を設置し、在宅訪問によるコミュニケーション支援の提供を中心とした、技術的支援を行う新たな機関のあり方について検討を行った。その結果に基づき、平成 23 年 5 月に「仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター」を開設した。

「仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター」は、意思伝達装置等の入力スイッチや機器の設定等に関して、訪問等により迅速かつ継続的な支援を提供している。

名 称	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
住 所	仙台市青葉区千代田町1-5-108
電 話	022-779-6873
ファクス	022-779-6874
開所日・時間	月曜日から日曜日 午前 8 時 30 分から午後 5 時まで

##### ① 支援実人数・支援回数

支援実人数 79 人（新規 21 人）

支援回数 1,305 回

##### ② 支援の方法

(単位:回)

訪 問	799
電子メール・電話での支援	209
支援に関わる機器の準備(加工・開発等)	260
関係機関との連携(ケア会議等)	20
研修の実施及び講師派遣	17
計	1,305

## ③ 訪問における支援の内容 (単位:回)※延回数

入力スイッチに関するもの	88
意思伝達装置の設定に関するもの	53
コールに関するもの	33
学習リモコンに関するもの(家電の操作設定等)	32
その他周辺機器等に関するもの	8
機器の使用環境に関するもの(固定具等)	44
機器の故障確認	95
入退院等に伴う機器の再設定	107
軽微な機器等のメンテナンス	40
アプリケーションソフト対応に関するもの	119
試用機会の提供及び操作指導	385
モニタリング等の使用状況の確認及び評価	95
関係機関とのケア会議等	5
情報提供	39
補装具費支給判定同行	18
その他	95
計	1,256

## (2) 支援者養成研修

地域で重度障害者と関わることの多い介護支援専門員、相談支援専門員、訪問看護・訪問リハビリテーション職員等が、コミュニケーション支援の重要性を理解するとともに、意思伝達装置の基本操作やタブレット、スマートフォンといった身近な通信機器の活用方法等を習得しスキルアップを図ることを目的に開催した。

名 称	重度障害者コミュニケーション支援 スキルアップ研修会	実 施 日	平成30年11月7日
対 象	市内の介護支援専門員、相談支援専門員、訪問看護・ 訪問リハビリテーション職員等	参加人数	81人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	講義①「仙台市におけるコミュニケーション支援の現状と補装具費・日常生活用具給付事業について」 講師：障害者総合支援センター 作業療法士 佐々木 恭子 講義②「当事者からのメッセージ～コミュニケーション支援の重要性について～」 講師：星山 二郎 氏 講義③「事例から見る仙台市におけるコミュニケーション支援の状況」 講師：仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター 安齋 敬太 氏 堀米 香奈 氏		
開催主体	障害者総合支援センター		

## II 業務の内容・実績

名 称	重度障害者コミュニケーション支援 スキルアップ研修会(演習編)	実 施 日	平成30年12月21日
対 象	市内の訪問リハビリテーション職員等	参加人数	5人
会 場	障害者総合支援センター 生活動作体験室1		
内 容	①演習「身近な通信機器の活用方法と、意思伝達装置の基本操作について」 講師：仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター センター長 木島 真央 氏 ②意見交換会		
開催主体	障害者総合支援センター		



## 5 生活環境支援事業

身体障害がある方の居住環境における物理的なバリアを改善することで、医療機関や施設から地域（在宅）への移行が円滑になること、そして、住み慣れた地域での生活を維持することができるようになることを目的に、福祉用具支援システムの構築や支援者・関係機関とのネットワークづくりを進めている。

また、障害者の高齢化重度化に適切な支援を行うための人材育成も課題となっている。加齢に伴う身体の変化を理解し、適切な福祉用具を導入することが求められる。一方、介護保険制度の対象となる高齢の障害者の増加においては、身体状況に適合しない既製品の車椅子の使用を継続することで重度化を助長していることも少なくない。そのため、車椅子の適合支援が行える人材を育成するための研修会を開催する。

### (1) 福祉用具専門研修

福祉用具支援に携わる支援者（介護保険領域の支援者を含む）を対象として、福祉用具の相談・選定・適合ができる人材の養成を目的とした研修会を開催している。

名 称	車椅子適合支援研修会	実 施 日	平成 30 年 11 月 8 日
対 象	障害者施設職員 介護支援専門員および福祉用具専門相談員	参加人数	54 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	①講話:障害高齢者の生活を支える車椅子～適合する車椅子を導入するためにケアマネジャーとして必要な知識 ②制度説明		
講 師	①東北福祉大学 総合福祉学部 教授 関川 伸哉 氏 ②障害者総合支援センター 主任 石川 洋子		
開催主体	障害者総合支援センター		

### (2) 福祉用具・住宅改修専門相談

当センターに設置している ADL シミュレーションや各種の福祉機器を実際に試し、身体機能を評価しながら、福祉用具の選定や住宅改修のアドバイスを実施している。来所できない方については訪問により対応している。定期開催日を設定し、市政だより等を通じて広く広報を行うとともに、相談支援事業所、地域包括支援センター等に周知を行っている。

対応件数（89 件）

来 所	32 件
訪 問	57 件

### (3) 福祉用具の普及啓発（他機関への福祉用具に関する協力等）

共 催	宮城県地域リハビリテーション研修会	実 施 日	①平成 30 年 8 月 25 日 ②平成 30 年 8 月 26 日
対 象	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士	参加人数	延べ 90 人
会 場	障害者総合支援センター 研修室 1、生活動作体験室		
内 容	講話「福祉用具」 福祉用具体験、説明		
講 師	障害者総合支援センター 主査 井上 美貴子、主任 石川 洋子		

## 6 人材育成

### (1) 障害者ケアマネジメント従事者養成研修

「仙台市障害者ケアマネジメント推進事業実施要綱」及び「仙台市障害者保健福祉計画」に基づき、地域リハビリテーションシステムを担う機関のスタッフの支援力向上を図るために、以下の研修を実施している。

なお、企画・運営は、精神保健福祉総合センター、北部発達相談支援センター、南部発達相談支援センター、障害者支援課と協働で行っている。

対象機関は、以下の通りである。区役所障害高齢課、総合支所保健福祉課、専門相談機関、障害者相談支援事業所、指定相談支援事業所、障害者福祉センター、自閉症児者相談センター、第二自閉症児者相談センター、視覚障害者支援センター、障害者就労支援センター、ひきこもり地域支援センター、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、難病サポートセンター。

#### ① 基礎研修

障害者相談支援に従事する新任者を対象とした研修を実施し、当事者主体の支援手法及びチームによるアプローチなどケアマネジメントの理念の共有、ポイントの確認を行っている。

名 称	基礎研修(前期・後期)	実 施 日	前:平成30年6月12日 後:平成30年10月16日
対 象	・対象機関で相談業務に新たに従事した職員 ・今後、仙台市ケアマネジメント従事者養成研修の実践研修やリーダー研修を受ける予定で、今までに基礎研修や新任研修を受講していない職員	参加人数	前:36人 後:26人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	<b>【前期】</b> ①ケアマネジメント概論(講義) ②相談支援とは(講義・演習) ③相手の立場に立つこと(演習) ④研修計画(講義) <b>【後期】</b> ⑤研修計画(講義・演習) ⑥自分自身の考え方を理解する(演習) ⑦当事者を知るためのセッション(講義)		
講 師	①・④・⑤ 東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授 三浦 剛 氏 ②・③・⑥ 社会福祉法人つどいの家・コペル 施設長 福地 慎治 氏 ⑦ 障害者相談支援事業所利用当事者 [ファンリテーター] 障害者相談支援事業所ソキウス 黒田 香奈子 氏 障害者相談支援事業所つるがや地域生活支援センター 吉川 有希子 氏 自閉症児者相談センター 西田 有吾 氏 自閉症児者相談センター 曾根 和之 氏 障害者相談支援事業所ハンズ太白 大山 一 氏 宮城野障害者福祉センター 高橋 美菜 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

## ② 実践者研修

前記の対象機関で相談業務に2年以上従事している職員を対象に、ケアマネジメントを用いた支援の質の向上を図るために、実践者研修を実施している。

名 称	実践者研修(前期・後期)	実 施 日	前:平成30年11月1日 後:平成30年12月13日
対 象	対象機関に所属する2年目以上の職員かつ基礎研修を受講したもの	参加人数	前:14人 後:13人
会 場	前:障害者総合支援センター 研修室1 後:障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	【前期】「仙台ならではのチームアプローチについて」 【後期】「相談員とクライアントの関係を振り返る」		
講 師	【前期】サポートケア県南ありのまま舎難病・障害者相談支援センター 所長 齋藤 栄樹 氏 【後期】ゆうゆう舎相談支援事業所けやき 所長 高橋 壮 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

## ③ リーダー研修

各事業所において人材育成を中心的に担う職員を対象に、人材育成の一手法であるスーパービジョンへの理解を深めることを目的とした、リーダー研修を実施している。本研修は、2カ年で合計4回の研修を受講する継続研修である。

名 称	リーダー研修(2年目:③、④、⑤) ※1年目:①、②はH29に実施済。	実 施 日	③平成30年5月21日 ④平成30年8月7日 ⑤平成30年11月27日
対 象	対象機関の現場リーダー	参加人数	③8人 ④7人 ⑤5人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	③スーパービジョンの実際 1(講義) ④スーパービジョンの実際 2 ⑤ファシリテーションについて		
講 師	③④東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授 塩村 公子 氏 ⑤東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科准教授 竹之内 章代 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

## II 業務の内容・実績

### ④ フォローアップ研修

リーダー研修を修了した者を対象としたフォローアップ研修を実施し、各事業所内でスーパービジョンが提供できる職員や、事例検討の場などで地域のリーダーとして活躍できる職員の育成を目指している。

名 称	フォローアップ研修(第1回～第3回)	実 施 日	①平成30年7月24日 ②平成30年11月27日 ③平成31年1月21日
対 象	平成26、28年度リーダー研修修了者(19人)	参加人数	①7人 ②9人 ③中止(申込者少数)
会 場	障害者総合支援センター 研修室2、会議室1		
内 容	①スーパービジョン事例の検討 ②ファシリテーションの概要、ファシリテーターの役割 ③スーパービジョンの実践について		
講 師	①なのはな会 加賀谷 尚 氏 自閉症児者相談センター 西田 有吾 氏 ②東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 准教授 竹之内 章代 氏 ③東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 教授 塩村 公子 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

### ⑤ 普及啓発研修

障害者支援に関わる職員を対象に、ケアマネジメントに関する基本的な知識の習得を目的とした、普及啓発研修を実施した。

名 称	普及啓発研修	実 施 日	平成30年6月12日
対 象	就労移行支援事業所の職員	参加人数	6人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1		
内 容	※基礎研修と合同開催のため基礎研修欄参照		
講 師	※基礎研修と合同開催のため基礎研修欄参照		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

### ⑥ 管理者研修

障害者支援に関わる事業所の管理者を対象に、ケアマネジメントに関する基本的な知識の習得を目的とした、管理者研修を実施した。

名 称	管理者研修	実 施 日	平成30年6月12日
対 象	対象機関の管理者	参加人数	5人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1、研修室2		
内 容	※基礎研修と合同開催のため基礎研修欄参照		
講 師	※基礎研修と合同開催のため基礎研修欄参照		
開催主体	障害者総合支援センター、精神保健福祉総合センター、北部・南部発達相談支援センター		

## (2) その他の人材育成業務

将来の障害福祉を担う人材の育成のため、大学からの実習生・インターンシップの受入れ等を実施している。

## ① 公衆衛生関係実習生受入れ（平成 21 年度から実施）

学 校 名	宮城大学	実 施 日	平成 30 年 11 月 20 日～平成 31 年 2 月 27 日 ※6 日間
内 容	地域看護学実習	人 数	7 人

学 校 名	東北福祉大学	実 施 日	平成 30 年 7 月 4 日
内 容	公衆衛生看護学実習Ⅱ	人 数	2 人

## 7 普及啓発事業

### (1) 福祉まつり「ウェルフェア 2018」への参加

毎年 11 月に、障害者総合支援センター、健康増進センター、北部発達相談支援センターの 3 センター協働により、市民向けイベント「いず☆ちゅう健幸祭」を開催していたが、平成 30 年度は施設の大規模改修のため実施をしなかった。代替として、福祉まつり「ウェルフェア 2018」（主催：仙台市・社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）に参加した。

#### ① 日時・会場

平成 30 年 9 月 17 日(日) 10:00～15:00 勾当台公園 いこいのゾーン

#### ② 出展内容

ブース名	内 容	協 力
車いすにのってみよう	車いすの体験	株式会社ジェー・シー・アイ
盲導犬がやってくる	盲導犬との体験歩行	(公財)日本盲導犬協会
見て、さわって、思いを伝える 機器	重度障害者のためのコミュニケーション機器の体験	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター

#### ③ 来場者

延べ 243 人

### (2) せんだいウェルリポート

当センターの業務を広く周知することを目的として、障害者総合支援センター・ニュースレター「せんだいウェルリポート」を年 1 回発行した。

#### 第 11 号

発 行	平成 30 年 9 月
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お知らせ「仙台市難病サポートセンターにご相談ください」</li> <li>・「見えない」「見えにくい」で困りごとがある方は仙台市視覚障害者支援センターにご相談ください</li> <li>・「視覚障害」の身体障害者手帳の認定基準が変わりました</li> <li>・これからの新しい生活にむけて～リハビリテーションのご紹介～</li> </ul>

## 8 難聴児補聴器購入等助成事業

成長期にある乳幼児及び児童の軽度・中等度難聴は、そのままでは言語や認知の発達を阻害する要因になることから、身体障害者手帳の交付対象とならない軽度・中等度難聴児の補聴器購入等の費用の一部を助成している。(平成 25 年 7 月 1 日より施行)

(単位:件)

種 目	決定件数
補聴器本体	18 件(うち 1 件が FM 型補聴システム同時申請)
FM型補聴システム	3 件
イヤモールドのみ	11 件
計	32 件

## 9 障害者相談員事業（委託先：社会福祉法人仙台市障害者福祉協会）

障害のある方やその家族の身近な支援者として相談に応じ、また障害のある方の地域活動を支える中核として活動することで、地域における相談支援ネットワークの窓口となり、障害のある方に対する市民の理解促進を図ることを目的に、障害者福祉に造詣の深い民間の方々に障害者相談員を委嘱している。任期は2年間で、委嘱者数は31名である。（H31.4.1現在）

本市においては、平成15年に従来の身体障害者相談員、知的障害者相談員の他に独自で精神障害者相談員を加え、平成25年度からは、難病等の方、高次脳機能障害のある方を対象とした相談員も委嘱している。

障害者相談員は、障害者総合支援センター等の専門機関が行う相談指導を除き、次の業務に従事している。

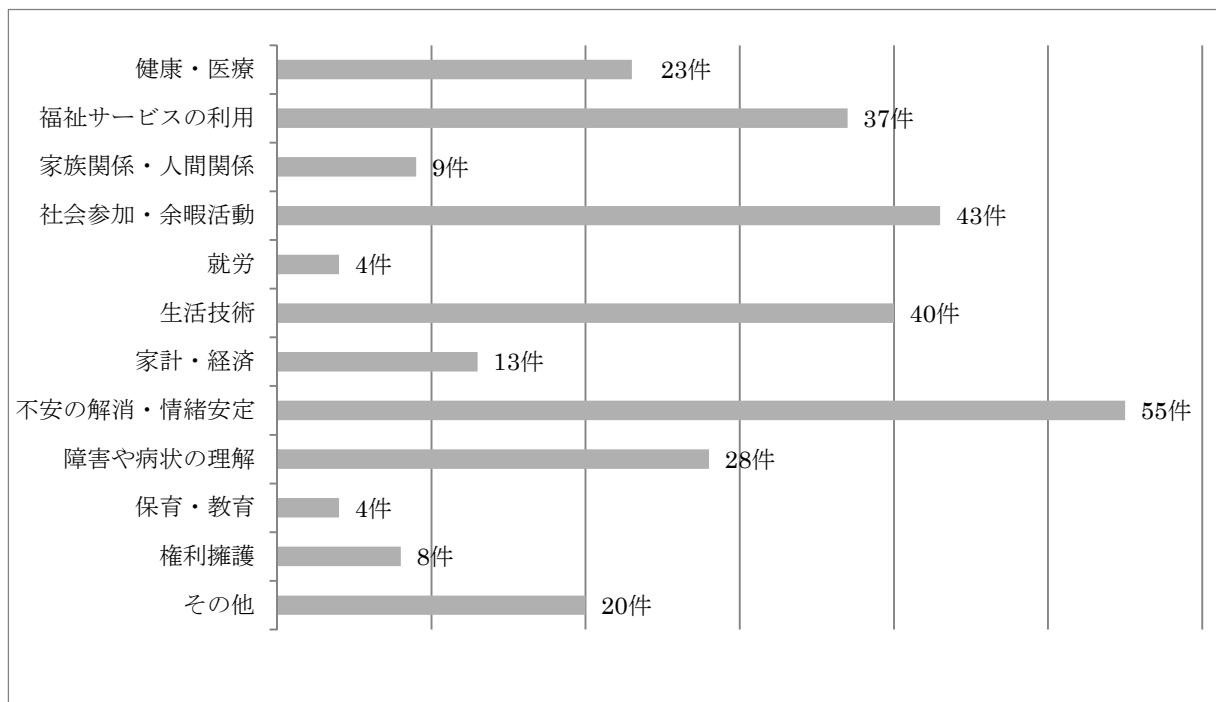
- ・ 障害者に対する市民の理解促進を図ること
- ・ 障害者及びその家族の相談に応じ、必要な援助を行うこと
- ・ 障害者の地域活動の中核として、その活動推進を図ること
- ・ 障害者福祉の増進について関係機関の業務に協力すること
- ・ その他付帯する業務を行うこと

### ア 障害分野ごとの相談員の人数（平成31年4月1日現在）

（単位：人）

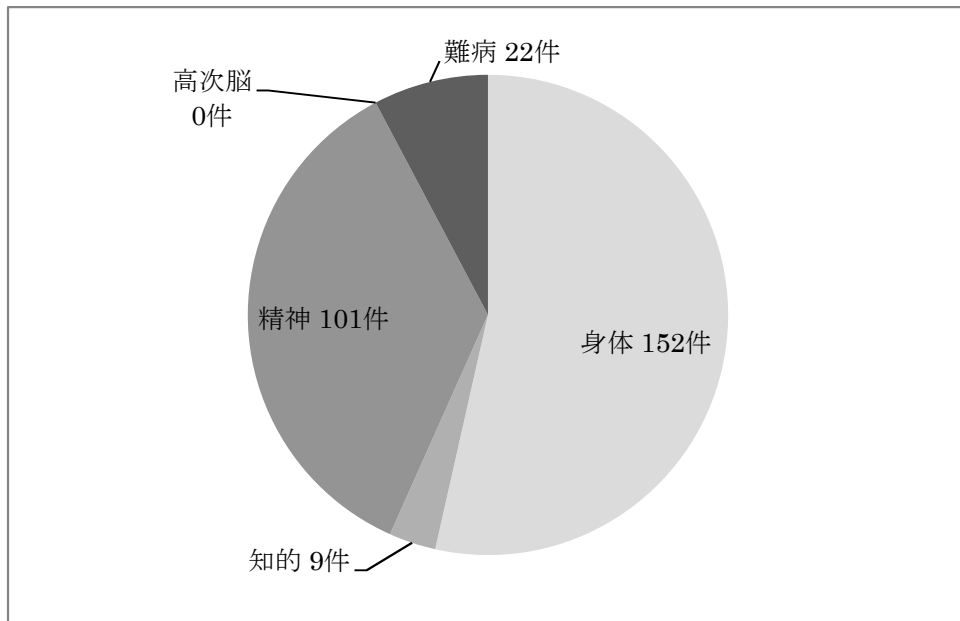
身体障害	知的障害	精神障害	高次脳機能障害	難病	計
20	4	3	2	2	31

### イ 相談内容と件数



## II 業務の内容・実績

### ウ 相談者の障害種類別内訳



### エ 会議・研修等への参加状況

237回

※集計期間:平成30年4月～平成31年3月



## 10 自立訓練（機能訓練）事業

市内4か所の障害者福祉センターにおいて、本市が指定事業者となり自立訓練及び生活介護事業を実施しており（委託事業、障害者支援課所管）、事業に従事する職員の人材養成を、北部発達相談支援センター、南部発達相談支援センター及び当センターが担っている。

当センターは、自立訓練（機能訓練）事業を主に担当し、研修の企画・運営及び職員に対する技術的バックアップを実施している。また、自立訓練（生活訓練）・生活介護事業と共通の研修を、障害者支援課・北部発達相談支援センター・南部発達相談支援センターと協働で実施している。

## ① 基本研修

名 称	共通研修	実 施 日	平成31年1月18日
対 象	障害者福祉センター職員	参加人数	28人
会 場	仙台市南部発達相談支援センター		
内 容	障害者支援における医療介護安全管理について		
講 師	国立保健医療科学院医療・福祉サービス研究部 主任研究官 柿沼 倫弘 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

名 称	医療的ケア研修	実 施 日	平成30年12月13日
対 象	障害者福祉センター職員	参加人数	34人
会 場	仙台市役所本庁舎8階ホール		
内 容	①障害者福祉センターにおける医療的ケアの実施について ②医療的ケアのある利用者へのチーム支援について		
講 師	②若林障害者福祉センター 看護師 伊藤 真由美 氏 若林障害者福祉センター 看護師 齋藤 幸美 氏 太白障害者福祉センター 看護師 朝倉 玲子 氏		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

## ② 専門職研修

名 称	自立訓練・生活介護事業看護師研修	実 施 日	①平成30年7月5日 ②平成30年8月22日 ③平成30年10月5日 ④平成31年1月24日
対 象	自立訓練・生活介護事業に従事する看護師	参加人数	延23人
会 場	仙台市役所本庁舎8階健康福祉局第1会議室等		
内 容	医療的ケア研修の企画打ち合わせ 医療的ケアガイドラインの修正について等		
開催主体	障害者総合支援センター、障害者支援課、北部・南部発達相談支援センター		

## II 業務の内容・実績

### ③ 分野別研修

名 称	自立訓練(機能訓練)事業職員研修	実 施 日	平成 30 年 10 月 3 日
対 象	各障害者福祉センター所長, 自立訓練(機能訓練)事業サービス管理責任者	参加人数	10 人
会 場	障害者総合支援センター		
内 容	自立訓練(機能訓練)活性化に向けた職員研修		
講 師	障害者総合支援センター職員		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	自立訓練(機能訓練)事業 高次脳機能障害支援研修	実 施 日	①平成 30 年 7 月～平成 31 年 3 月(全 9 回) ②平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月(全 4 回)
対 象	各障害者福祉センターの自立訓練(機能訓練)事業に従事する職員	参加人数	①延 41 人 ②延 36 人
会 場	障害者総合支援センター, 太白障害者福祉センター		
内 容	①機能訓練における高次脳機能障害への支援のあり方について ②高次脳機能障害支援の実際		
講 師	障害者総合支援センター職員		
開催主体	障害者総合支援センター		

名 称	先進地視察研修	実 施 日	平成 30 年 12 月 4 日
対 象	各障害者福祉センターの自立訓練(機能訓練)事業に従事する職員	参加人数	3 人
会 場	山形県		
内 容	山形県高次脳機能障がい支援センター 視察		
開催主体	障害者総合支援センター		

### ④ 自立訓練(機能訓練)利用者支援検討会議

自立訓練(機能訓練)利用者に対する的確なアセスメントの実施と、アセスメントに基づいた訓練プログラムの提供ができるように、毎月 1 回全障害者福祉センターと障害者総合支援センター職員とで支援検討会議を開催している。

#### (参考) 自立訓練(機能訓練)事業の利用実績と委託先

	宮城野障害者福祉センター	若林障害者福祉センター	太白障害者福祉センター	泉障害者福祉センター
利用実績	延 1339 人 (1 日平均 5.3 人)	延 845 人 (1 日平均 3.4 人)	延 923 人 (1 日平均 3.7 人)	延 852 人 (1 日平均 2.7 人)
委 託 先	(社福)仙台市障害者福祉協会			(社福)仙台市社会福祉協議会

## 難病支援事業

難病の患者に対する良質かつ適切な医療の確保を図るとともに、難病の患者及びその家族が地域で安心して暮らすことができるよう環境を整えることを目的に、次の事業を実施している。

なお、「難病の患者に対する医療等に関する法律」(平成26年法律第50号。以下「難病法」という。)の大都市特例により、特定医療費(指定難病)の支給、指定医療機関、指定医の指定、及び療養生活環境整備事業にかかる事務が宮城県から移譲され、平成30年4月から当センターで実施している。また、これに合わせ、これまで障害企画課、障害者支援課で行っていた難病対策を当センターに集約した。

### 1 指定難病医療費助成

難病法に基づき、特定医療費(指定難病)の支給認定、医療受給者証の交付を行っているほか、指定医療機関、指定医の指定を行っている。

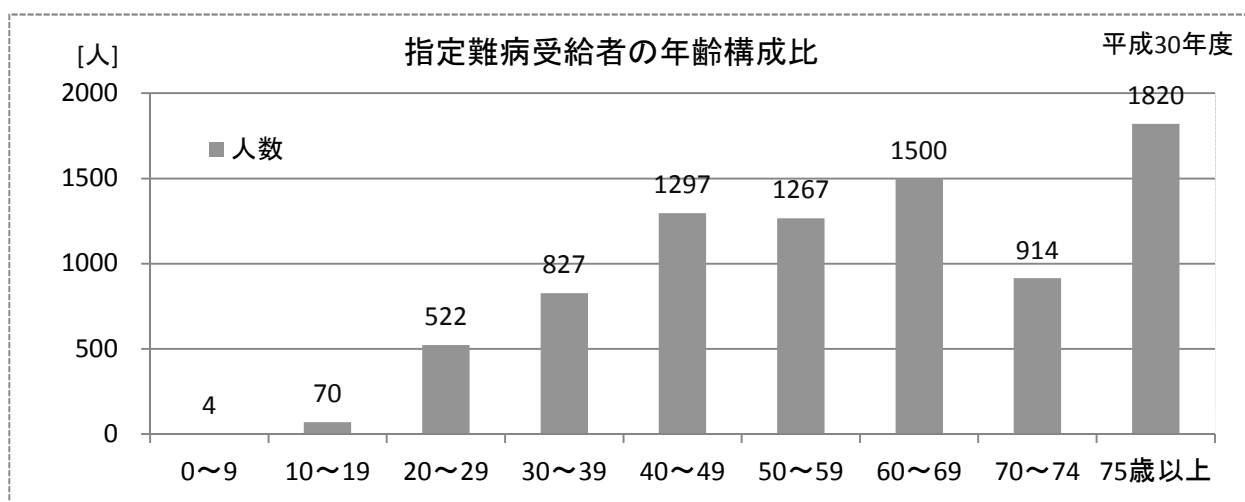
また、特定医療費(指定難病)の支給不認定にかかる審査を行うため、仙台市指定難病審査会を設置し、運営している。

#### (1) 医療費助成

医療費助成状況(平成30年度)

受給者数(人)							助成額 (千円)
青葉	宮城野	若林	太白	泉	宮城総合	合計	
1,569	1,330	1,059	1,797	1,739	552	8,046	1,257,169

※実人数



※複数疾患の方は複数で計上

#### (2) 難病法施行規則第15条に規定する指定医の指定数(平成31年3月31日現在)

1,555人

#### (3) 難病法第14条に規定する指定医療機関の指定数(平成31年3月31日現在)

(単位:所)

医療の種類	医療機関	薬局	訪問看護事業者
機関数	930	574	79

## 2 難病患者等支援事業

難病の患者の療養生活の質の維持向上を図ることを目的に、難病の患者及びその家族等（以下「難病の患者等」という。）に対する相談支援や、難病の患者に対する医療等に係る人材育成、在宅療養患者に対する訪問看護を行うほか、各区及び総合支所（保健所）を中心として、地域の医療機関や関係機関との連携のもとに相談事業を行っている。

### (1) 難病相談支援センター事業(委託先:NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会)

平成 25 年度に市単独事業として仙台市難病サポートセンターを設置し各種相談支援事業を実施してきたが、難病法に基づく権限移譲により、平成 30 年度より国補助事業として実施している。

名 称	仙台市難病サポートセンター
住 所	仙台市青葉区木町通一丁目 4 番 15 号 仙台市交通局本局庁舎 7 階
電 話	022-796-9131
ファクス	022-211-1781
相談日・時間	月曜日から金曜日 午前 10 時から午後 5 時まで 第 3 土曜日 午前 11 時から午後 4 時まで 第 2 日曜日 午前 11 時から午後 4 時まで

#### ① 相談支援

電話、面接等により適切な助言を行うとともに、必要に応じて医療、保健、福祉及び労働等の適切な関係機関と連携した対応を実施している。

区 分	相 談 者			
	患者	家族	その他	計(延人数)
①電話相談	206	88	166	460
②面接相談	86	37	13	136
③その他	29	6	9	44
計	321	131	188	640

※メール・ファックス、訪問支援、同行支援等は③その他に計上

#### ② 就労支援

公共職業安定所等関係機関と連携を図り、患者の就労に関する相談支援や情報提供を行うとともに、就労継続のための各種支援を実施している。

就労に関する相談件数 延 177 件

## ③ 講演・研修会(難病医療相談会)の開催

難病患者やその家族に対し、医療及び日常生活に関する相談・助言や、本人・家族の精神的ケア、情報交換、社会参加の場を提供することにより、疾病等に対する不安の解消を図ることを目的に実施している。対象疾患の拡大や患者会活動の支援を図るため、難病医療相談会業務をNPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会に委託している。(各区実施分を除く。)

実施日	疾患名	テーマ	参加人数 (延)
平成30年6月30日 平成30年7月7日 平成30年7月14日 平成30年7月21日 平成30年8月4日 平成30年8月18日	難病等の慢性疾患	セルフマネジメントワークショップ① セルフマネジメントワークショップ② セルフマネジメントワークショップ③ セルフマネジメントワークショップ④ セルフマネジメントワークショップ⑤ セルフマネジメントワークショップ⑥	54
平成30年4月28日	パーキンソン病	パーキンソン病の物忘れとその対策	150
平成30年5月19日	多発性硬化症・視神経脊髄炎	多発性硬化症治療薬の選び方、多発性硬化症とともに生きていくために	60
平成30年6月10日	網膜色素変性症	網膜色素変性症治療の現在・未来	68
平成30年6月24日	膠原病	膠原病の最新治療について	90
平成30年7月15日	サルコイドーシス	サルコイドーシスの難治化の原因を探る、心臓サルコイドーシスについて	53
平成30年7月15日	ポリオ	二次障害の予防と装具・運動の活用	25
平成30年9月1日	遷延性意識障害	知って得する予防的スキンケア～気持ち良いスキンケアを体験してみよう～	45
平成30年9月15日	線維筋痛症	慢性疼痛性・線維筋痛症のマネージメント～痛みと疲労にどう対処すべきか～	21
平成30年10月14日	後縦靭帯骨化症	頸部脊髄症と腰部脊柱管狭窄症について～手術が必要な症状とは～	75
平成30年10月14日	リウマチ	リウマチ患者と感染症について、慢性疼痛とは～慢性腰痛を中心に～	60
平成30年10月21日	もやもや病	もやもや病による高次脳機能障害～地域での私の暮らし～	37
平成30年11月4日	胆道閉鎖症	胆道閉鎖症・自分の病気を知ろう～自分自身が自分の病気について学ぶ～	15
平成30年11月18日	炎症性腸疾患	IBDの治療薬～現在と未来～、IBDの漢方治療について	43
平成30年11月25日	ダウン症	ともに育つ～表現することは生きること～	107
平成30年12月15日	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーに対するゲノム編集治療研究のご紹介～ゲノムを手術して遺伝子変異を治す!?!～	52
平成31年1月26日	てんかん	てんかんの外科的治療	50
平成31年3月10日	ファブリー病	ライソゾーム病の遺伝子治療の進歩、酵素補充療法で安心しない! 血圧、肥満も大事ですよ!、ファブリー病の早期診断と治療	67
平成31年3月17日	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	覚えておこう! CIDP	27
平成31年3月29日	神経難病他	難病等慢性疾患患者と感染予防に関する勉強会	52
計			1,151

## II 業務の内容・実績

### ④ ピアカウンセリングの実施、ピア・サポーターの養成支援

患者等を対象に参加費無料のピア・サポーター養成研修を開催するとともに、ピア・サポーターを活用した相談支援を実施している。

#### ア ピアカウンセリングの実施

実施日数 205 日

#### イ ピア・サポーターの養成支援

名 称	ピアサポート講習	実 施 日	平成 30 年 12 月 14 日
対 象	難病等の患者または家族	参加人数	24 人
会 場	仙台市難病サポートセンター		
内 容	難病の歴史と制度、相談員としての心得、体験談、交流会		

### ⑤ ボランティアの育成・活動

患者等の療養生活を支援する地域のボランティアの育成を図ることを目的に、仙台市民を対象に、難病に対する理解を深め患者等への基礎的な支援技術を学ぶボランティア養成講座を開催している。

名 称	難病患者等ボランティア養成講座	実 施 日	平成 30 年 11 月 17 日
対 象	仙台市にお住まいの方	参加人数	23 人
会 場	仙台市難病サポートセンター		
内 容	難病の歴史と制度、患者の思い、交流会		

## (2) 難病患者等ホームヘルパー養成研修事業

(委託先:公益財団法人仙台市健康福祉事業団、NPO 法人宮城県患者・家族団体連絡協議会)

難病の患者等の多様化するニーズに対応した適切なホームヘルプサービスの提供に必要な知識、技能を有するホームヘルパーの養成を図ることを目的に実施している。

(平成 29 年度所管課: 障害者支援課)

#### 【基礎課程Ⅰ】

実施日	平成 30 年 12 月 5 日	委託先	(公財) 仙台市健康福祉事業団
会 場	仙台市シルバーセンター	修了者数	11 人

#### 【基礎課程Ⅱ】

実施日	平成 30 年 10 月 31 日	委託先	(特非) 宮城県患者・家族団体連絡協議会
会 場	太白ありのまま舎	修了者数	15 人

## (3) 在宅人工呼吸器使用患者支援事業

訪問看護が必要な指定難病の患者、在宅で人工呼吸器を使用している患者に対し、訪問看護ステーション等に訪問看護を委託し、必要な費用を交付することにより行う。平成30年度新規事業。

※平成30年度実績なし

## (4) 訪問相談・指導事業

要支援難病患者やその家族が抱える日常生活上及び療養上の悩みに対する相談や在宅療養に必要な医学的指導等を行うため、専門の医師、保健師、看護師等による、訪問相談・指導を実施している。

訪問相談 実施回数	訪問相談 対象延人員	訪問相談従事延人員				
		医師	看護師	保健師	その他	計
267	267	0	97	179	90	366

※各区・各総合支所および障害者総合支援センター合計

## (5) 難病支援連絡会

難病支援に携わる支援者のネットワーク形成と、難病の方を支援していくための課題共有や支援方法の検討を目的に実施している。

名 称	難病支援連絡会	実 施 日	①平成30年5月28日 ②平成30年9月13日 ③平成31年1月16日 ④平成31年3月1日
対 象	難病患者等の相談支援に従事する障害高齢課・保健福祉課職員、患者・家族団体、仙台市難病サポートセンター職員、仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター職員、東北大学病院難病医療連携センター職員等	参加人数	①29人 ②20人 ③18人 ④17人
会 場	障害者総合支援センター 研修室1・2		
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度事業実績について</li> <li>・難病医療相談会について</li> <li>・災害時個別支援計画の取り組みについて</li> <li>・平成30年度難病支援従事者研修の報告について</li> <li>・平成30年度難病対策事業の報告について</li> <li>・平成31年度難病対策事業について</li> </ul>		

### 3 難病患者等補装具等賃借費助成事業

難病患者等及び重度身体障害の方が、必要な時に、適切な福祉用具を利用することができるよう、補装具等を賃借する費用の一部を助成している。(平成 25 年 9 月 1 日より施行)

(単位:件)

種 目		決定件数
張力調整付上肢装具	ポータブルスプリングバランサー	2
歩行補助用具	歩行器・歩行車・杖(一本杖は除く)	0
車椅子	車椅子、電動車椅子	5
段差解消用具	昇降機、スロープ等	3
移動用リフト	移動用リフト・つり具	2
特殊寝台	電動ベッド(付属品を含む)	3
計		15

### 4 遷延性意識障害者治療研究事業

遷延性意識障害者に対する治療研究費として、治療研究医療機関に対し介護料日額 3,000 円、褥瘡予防費日額 350 円を交付している。

平成 30 年度支給実人員 23 人